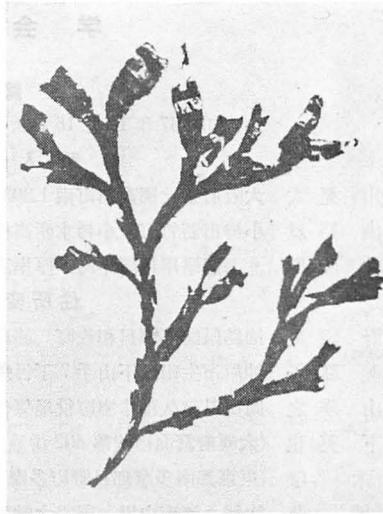


あり、下部は肥厚して茎に移り、上方に向うに従って扁平し、先端に近づくに従って消失す。小枝は長さ 4.5 cm, 幅上部 1.5 cm, 中部 1.8 cm, 下部 7 mm 位あり。生殖器托は枝の末端著しく膨脹して気胞の如くなり其処に生殖窠を作り、長楕円形をなし、黒色を呈す。

本海藻はイハマタ *Fucus inflatus* VAHL. var. *edentatus* ROSENV. に類似するように思われたが、北大山田教授の鑑定を仰いだ処やはり *Fucus evanescens* C. AGARDH に査定する方が適当なりとされた。イハマタについてはかつて遠藤・岡村両博士共日本産のものを之にあててことは多大の疑問があるとされ、又一個体のみのものであるのでやはりヒバマタに査定する方が妥当と思われる。

猶、日本海藻誌にては「時に銚子迄あり(漂流)」と記載されているが、更に南方の新舞子迄漂着したことは興味あることであろう。

(三重県立大学水産学部)



ヒバマタ (新舞子にて採集)
Fucus evanescens C. AGARDH ca. $\times 1/4$

PHYCOLOGIA への投稿について

国際藻類学会の機関誌 PHYCOLOGIA に日本の藻類研究者の投稿を求める旨、加州大学の Dr. P. C. SILVA から便りがありました。尚、私を同誌の Associate Editor の一人に指名し、日本からの投稿のあっせんと、原稿(英文)の世話を依頼したいとありましたので承諾の返事を出しておきました。ついては、どしどし投稿せられるようおすすめします。又、投稿者を御推薦下されば幸いです。英文原稿の仕上げについては微力ですがお手つだいさせて頂きますから御遠慮なくお送り下さい。先方への送附もお世話いたします。

(函館市港町 北大水産学部時田郁)